

## 第42年度（2026年度）ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

### 「AI と共に成長・進化するレビュー」

生成AIの活用が広がる中、「AIにレビューをさせる」「AIに支援してもらおう」といった取り組みが増えています。

確かにAIは優れた指摘を出します。それでも私は、ある問いを抱えています。AIがレビューをする時代に、人間の思考はどうなるのか。AIの出力を受け取り、従うだけになってしまうのではないか。

もし人間が考える力を失えば、AIの妥当性すら判断できなくなります。それは進化ではなく、依存です。

優秀なレビューアは、単に欠陥を多く知っているわけではありません。成果物の中の小さな違和感やキーワードから、過去の障害事例、作成者の状況、後工程や利用者の立場まで思いを巡らせ、「本当に問題は起きないか」と考え続けています。例えば「日付」という言葉があれば、「以前、日付の解釈違いで障害があった」、「今回の仕様は曖昧ではないか」と、過去と未来をつなぎながら問題の芽を探ります。この“思考の広がり”こそが、これまで一部の優秀な人の中に蓄積されてきた力です。私は、この力を失いたくない。逆に、多くの人に広めたい。

だからこそ目指すのは、AIにレビューを任せることではありません。AIと共に、思考を進化させること。

暗黙知として属人化してきた思考方法を言語化し、AIに学ばせる。そして人間もAIとの共同学習を通じて、自らの思考を振り返り、不足している視点に気づき、成長していく。AIは代替者ではなく、思考を映し出す鏡であり、共に学ぶパートナーです。

現在進行中の2025年度レビューコースでは、「レビューでのAI活用」をテーマに研究を進めています。その中で生まれたのが、「もぐつむ法」です。優秀なレビューアの思考プロセスをAIに蓄積し、若手がAIとの学習サイクルを通じて成長していく仕組みです。AIにレビューさせる時代から、AIと共に思考を進化させる時代へ。

この研究について、気になる方は、3月頃に日科技連ホームページで研究論文が公開されますので、ぜひご覧ください。

本コースでは、ソフトウェアレビューに関して現場で抱えている課題を、研究員の皆さんと指導講師陣が共に考え、共に解決していきます。

皆さんも是非研究会に参加して、レビューの技術を学び、課題を解決する新しいレビューのやり方を一緒に考えてみませんか？

主査である私（中谷）と副主査の上田さんは、元研究員ですので、研究員の皆さんに寄り添って

研究活動の支援を行います！アドバイザーの安達さんは、ソフトウェアプロセス改善手法 SaPID の提唱者であり、様々な企業のレビュー改善、プロセス改善に貢献されていますので、研究員の

皆さん、所属組織にとって価値の高い、意義ある研究へと導いてくれます！